



## 福澤諭吉生家の糸車・大分中津

日本三大水城で名高い中津城（大分県）は一五八八年（天正十六年）に黒田孝高により築城されたといわれ、そのスケールの大きさと美しさを今に伝える。福澤諭吉はその中津藩の下級武士の次男として一八三五年（天保五年）に大阪で生を受けた。一歳の時、父の百助と死別し、母子六人で中津に帰郷した。

三歳の幼少時から長崎に遊学する二十一歳の青年期まで、中津で過ごす。その旧宅と隣接する福澤諭吉記念館が中津市の観光名所として一般公開されていて、多くの旅人が見学に訪れている。福澤家の部屋に残されている糸車をながめてみると、当時の貧しい生活を支えた母親の姿が想像され、その生活環境がしのばれる。庭に立つ土蔵は諭吉が改造したものであり、勉学に励んだ少年時代の人形が置かれ当時を物語る。後に日本近代化の先駆者となり、三十三歳で『慶應義塾』を創設。その後『学問のすゝめ』を著し、「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らずと云えり」の名言を残す。

（写真・文 樋口健二）